



議員定数の算定方式には

① 常任委員会数方式	常任委員会の数 × 審議する議員数(1つの委員会)
② 人口比例方式	国勢調査における人口数 ÷ 議員1人当たりの住民代表数
③ 住民自治協議会方式	小学校区で最低1人の議員を選出
④ 類似都市との比較方式	人口・財政規模の類似する都市の議員定数と比較

他にも 議会費固定化方式 面積・人口方式などがあります。

議論の末、高梁市議会では、「常任委員会数方式」を基本として、定数を考えることにしました。

「委員会中心主義」とは？

議会が意思決定機関としての役割を果たすために、専門的かつ詳細に審査活動を行うために設けられたのが委員会です。委員会の審査結果に基づいて本会議で審議し、議決することによって初めて議会での意思決定となります。

高梁市議会の委員会

議会運営委員会 6人	
特別委員会 特定の目的のために作られた期限付きの委員会。	常任委員会 議案を、専門に分かれて審議するための委員会。
議会のあり方検討特別委員会 8人	総務文教委員会 6人
議会広報公聴特別委員会 8人	産業経済委員会 6人
議会ICT化推進特別委員会 6人	市民生活委員会 6人

議会のあり方検討特別委員会は、議員定数や報酬、議会のあり方などを考えるため、令和2年12月16日に設置されました。以降、議員定数については、人口や面積から見るとどうか、また類似自治体と比較して定数かどうか、さらに市議会議員選挙が無投票だったことをどう考えるのかなど多面的に議論してきました。

主な意見としては、

- 定数を削除すると周辺地域の声が届きにくくなる。
- 定数が減れば最低当選票数が上がり、立候補のハードルが高くなる。
- 委員会構成を考えれば、今の定数が最低ラインである。

○市民から定数削減を求める声は聴いていない。

○前回選挙の無投票を考えれば削減はやむを得ない。

○人口が減少するなか議員定数も下げるべき。

○市民から議員は多過ぎるという声を聴いている。

○次回も無投票となれば議会の見識が問われる。

○この意見が出されました。

現状維持か削減か？ 全員協議会で意見は拮抗！

これらの意見を踏まえ11月2日に開催した議会全員協議会で全議員が各々の意見を発言したところ、議員17名のうち現行の18人を維持すべきが8名、2人削減の16人とすべきが7名、2人あるいは4人削減の14人とすべきが1名でした。

この結果を受けて、12月3日に第9回の委員会を開



催し、全議員の意見を集約すると、現状維持が8名、削減が9名であり、次期一般選挙の2年前の令和4年9月までに一定の結果を出すこととしています。

報酬は今のままでよいのか？

報酬については他の議会で引き上げる動きがありますが、コロナ禍において現段階では市民の理解が得られないとの考えで、定数についての議論を先行しています。

「今、話したらいかがいがある」

「政治のリアルについて話そう3時間」

11月14日、吉備国際大学、井勝久喜研究室の学生が主催のZOOMを使ったオンライン会議が開催され、市議会議員有志11人と、大学生、高校生、社会人を合わせて34人が参加し「未来を担う若者たちと政治」をテーマに話し合いました。

若者のための政治プロジェクト

参加者からは「議員が普段何をしているかよく分かった、議員とは壁があると思っていたがイメージが変わった、議員や他の方々の意見を聞いて、政治により興味を湧いた」などの意見や、留学生からは「私の国では議員は市民から遠い存在だが、高梁市では議員との距離が近いことが分かった」などの感想もありました。また「若者が政治に関心を持つためには、自分たちの意見を届ける場も必要で、市の執行部と一緒に『大学生・若者議会』の開催をしてほしい」といった提案もありました。

議会の期末手当の減額について

令和3年11月18日に開催された臨時会では、議員の期末手当の減額に関する議案(乙議案)が提案されました。これは、年間の公務員の期末手当総額が民間を上回ったことから、人事院から期末手当の支給月数引き下げが勧告されたことによりです。

執行部もタブレット端末を導入

11月の臨時会、12月定例会において、執行部もタブレット端末を試験的に導入しました。円滑な議事運営、議案審査およびペーパーレス化等、議会におけるICT化を目指していきます。



高梁市議会公式ホームページ
<https://www.city.takahashi.lg.jp/site/gikai/>

